

創造表現コース3年 国語研究 6月18日 「朗読といえば」

今回の国語研究の授業では、朗読家の石田麻利子先生にお越しいただきました。「朗読」と聞いて、皆さんが思い浮かべるのはどんな情景ですか？私が思い浮かべたのは、図書館でお姉さんが子供たちに向かって絵本を読んでいるシーンです。あれは正確には「読み聞かせ」なのですが、本質は朗読と近いところがあるような気がします。あの頃は、話の展開にワクワクドキドキしながら、夢中になって話を聞いていましたよね。でも、よく考えてみてください。
「今なんて言った？聞き取れなかったよ。」
となることって、あまりないですよ。何故でしょう？

その理由は、発声方法にありました。もちろん滑舌も大切ですが、朗読する際に大切な事は「発声時に出る空気の量を一定にすること」や、「大きな声ではなく、小さくても相手にしっかり届く声を出すこと」などが挙げられます。そのためには、良い姿勢はもちろん、筋肉のこわばりを無くすこと、しっかりとした腹式呼吸をすることなど、様々なポイントを押さえなければなりません。今回の授業では、これらを押さえた発声練習を行いました。文字だけでは伝わらないかもしれませんが、結構これが難しい。自分の身体を意のままにコントロールすることの重要さと難しさを感じました。朗読は、教科書を読むみたいに、ただ読むだけではない。色んなことに注意しながら、一音一音丁寧に発音していかなければならない。そんなことに気づかされました。

さて、次回の授業は来月。一体どんな授業が待っているのか。朗読を聞いていたあの頃よりもワクワクしています。

(文 3年生 T. R.)



朗読実践の一步目として
身体から力を抜く体操を教えてくださいました。

石田麻利子 (いしだまりこ)

テレビ・ラジオの情報番組、式典、イベントの司会でキャリアを積み、2001年からNHKカルチャー名古屋他で朗読指導を開始。2013年、朗読研究により修士(学術)を取得。優れた文学作品を次世代に繋ぐという意識を持って、朗読にしかできないことを追究し、朗読分野の充実を目指している。2016年、音楽家の続木力氏・谷川賢作氏とのコラボレーションでCD「夢一夜」リリース。装画は牧野環氏。

([ブログ「朗読ライフ」](#)より抜粋)